

岩手県野田村の支援・交流活動報告（2012年5月27日）

先週に引き続き、農作業のお手伝いを中心とする活動が企画され、5月27日（日）に活動を行いました。参加者は23名で、内訳は、学生が8名、市民が14名、教員が1名、男女構成は、男性が12名、女性が11名です。市民参加者の中には、前回に引き続き高校生が2名参加してくれていました。

予定より若干遅れて7時20分頃弘前大学を出発。途中2回の休憩を挟みながら順調にバスは進み、10時20分頃野田村に無事到着。野田村役場前の「のんちゃん広場」には、すでにお迎えの方々が出てきてくれました。



道の駅「おりつめ」での集合写真

今回の活動は、3つのグループに分かれます。大きく「塩の道を歩こう会」への参加するグループと、農作業のお手伝いをするグループに分かれ、さらに農作業お手伝いグループは、米田さんお手伝いグループと小野寺さんお手伝いグループに分かれました。

「塩の道」グループは、迎えに来ていただいた方の車で休憩地点まで乗せていってもらい、そこで地元の参加者の皆さんと合流したそうです（本隊は、9時に村役場前に集合し、バスで移動した後、一足先に出発していました）。参加者は全員で40名くらいだったようで、一緒に和佐羅比山の頂上を目指しました。実は、今回の活動前々日に連絡があり、「和佐羅比山の頂上から声を掛けるので、声が聞こえたら手を振って欲しい」と言われていました。期待して待っていたのですが、残念ながら私たちが作業をしていた場所からは和佐羅比山の頂上は見え、また、頂上に登った皆さんも思いのほか疲れていたため、結局声掛けは実現しませんでした。頂上から下りた後、震災後に再建された「のだ塩工房」を見学し、米田の仮説店舗で私たちと合流しました。「塩の道」グループに参加された方は、「いい山だった。」「日ごろの運動の足りなさを痛感した。」「下りが急で足腰に来た。」という感想を述べていました。

農作業グループは二手に分かれて作業をしましたが、どちらも作業内容はほぼ同じで、田植えが終わった後の育苗箱をきれいに洗い、まとめて縛るというものです。私は米田さんグループに参加したのですが、田んぼ脇の農業用水路で洗浄し、洗い終わった育苗箱を10箱ずつまとめて紐で縛るという作業を繰り返しました。前回の事務局を担当された山口先生から、①育苗箱を丁寧に洗うこと、②紐をきつく縛ることの2点に注意するようにと

いう申し送りがあったので、参加した皆さんはその2点に注意しながら作業を進めます。前回参加された市民の方の中には、「育苗箱専用ブラシ」を準備してこられた方もいました。また、米田さんグループには、北海道教育大学岩見沢校の前田和司先生が参加され、一緒に作業を行いました。午前は、作業開始が11時近かったこともあってなかなか育苗箱が減っていきません。しかし、お昼を挟んで午後は、一気に作業能率もよくなり、15時過ぎには、その時点で作業現場にあった育苗箱はすべて洗い終えることができました。



作業前の「育苗箱」



作業後まとめられた「育苗箱」

作業後、まず小野寺さんグループからは、「きれいな小川で、小鳥の声を聞きながら気持ちよく作業ができた。」「笑ったり話したりしながらの作業が楽しかった。」「『お休みリーダー』がいなかったのが腰にダメージが来た。次回はもう少し休みをとりながらやりたい。」という声が聞かれました。また米田さんグループからは、「もう一つのグループと違ってこちらは黙々と作業をしていた。」「やることあるのかなと思っていたが、こういう手伝いの仕方もあるのかと思った。続けてやっていきたい。」「楽しみながら新鮮な体験ができた。」という感想が寄せられていました。



作業を行った農業用水路の風景



「育苗箱」を洗って…



紐で縛ってまとめる

今回のお昼は、事前にお弁当を注文しておき、農作業グループ全員で、米田仮設店舗で頂きました。お弁当のほかに、出来立てのお豆腐とつきたての草餅を振舞って頂き、さらに帰りには、全員に採り立てのニラを1袋と餡子餅が、お土産として用意されていました。作業内容以上のお土産を頂いて恐縮するばかりです。何となく、田舎に帰省したときに、両親や祖父母がお土産をたくさん持たせてくれたのと同じ懐かしい感じがしました。せっかくのご好意なので、遠慮なくいただいて帰ってきました。



米田仮設店舗での食事風景

帰りのバスも、道の駅「のだ」を含めて3回の休憩を挟みながら順調に進み、19時20分頃には、無事弘前に到着しました。今回、学生事務局を担当した人文学部1年の藤田雄大さんが大活躍してくれ、私は本当に何もしないまま終わった感じがします。本当に助かりました。

私自身は久しぶりの野田村で、景色がずいぶん変わっていることに驚きました。とくに感慨深かったのは、三陸鉄道北リアス線の陸中野田駅から田野畑方面へ向かう電車が見られたことです。昨年のガレキ撤去のお手伝いをしたときに何度か線路の近くで作業をしたのですが、その際には、線路そのものが流されている場所もあり、電車が走っている姿は想像できませんでした。今回の作業現場にバスで向かう際、線路が復旧しているのを見かけ、また作業していた場所からは電車が走っている姿も見ることができました。私にとっては復旧・復興を感じ取れるシーンでした。しかしながら一方で、ガレキの山はまだ残っており、完全に元に戻るまでにはまだまだ長い年月が必要であることも感じました。

(担当 平野 潔)